

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第111号

[2018年12月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第111号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

賛助会員の皆様へ 会員更新のお願い

新刊のお知らせ

活動報告会のご報告

国内から

国際保健医療協力のなかで (41)

編集後記

次号の予定



賛助会員の皆様へ 会員更新のお願い

平素よりメータオ・クリニック支援の会（JAM）の活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、賛助会員の皆様へ会員の更新をお願いしたく、ご連絡いたします。

当会は賛助会員の更新時期を年末に揃えさせていただいております。

今回、平成29年7月～平成30年6月までにご入会および更新してくださいました皆様へご案内させていただきます。

日頃、JAMの活動を応援してくださり、誠にありがとうございます。引き続きご支援を賜りたく、ご賛同いただける方は下記の要領にて会員更新の手続きをよろしくお願いいたします。

更新の対象となる皆様には先日、JAMオリジナルカレンダーと共にご案内の文書をゆうメール便にてお送りさせていただきました。ご不明な点は、事務局 (support@japanmaetao.org) までお問い合わせください。

更新の対象となる方：

平成29年7月～平成30年6月までに入会および更新いただいた皆様

会員期間は平成30年12月末をもちまして終了となります。

更新いただける場合は、お手数ではございますが、平成31年1月末までに手続きをよろしくお願いいたします。

更新後の会員期間は平成31年12月末までとなります。

すでに会員期間が過ぎてしまった皆様におかれましても、新たに賛助会員としてご支援いただけましたら大変有り難く存じます。手続きの方法は同じです。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、更新を希望されない方につきましては、手続きはご不要です。またご支援いただける機会をお待ちしております。

賛助会員 更新手続き（年会費入金）の方法について

■下記の年会費をお振込みください。

ホームページ (www.japanmaetao.org) からクレジットカード決済も可能です。

「あなたとできること」→「賛助会員になる」の下「クレジットカードによるお申し込みはこちら」へお進みください。

＜年 会 費＞	一般会員：	3,650円／年
	学生会員：	1,825円／年
	法人会員：	36,500円／年



<振込先口座>

ゆうちょ銀行（銀行コード9900）
支店名：〇一八（ゼロイチハチ）
口座名義：NPO法人 メータオ・クリニック支援の会
（カタカナ） トクヒ）メータオ クリニックシエンノカイ
口座番号：10140-8960841
*他行からのお振込みの場合 普通 0896084

※ 当会が入金の確認をもって手続き完了となります。メールにてお知らせいたします。

■注意事項

- ・住所、氏名、メールアドレスに変更がある場合、振込名義がご本人でない場合は、事務局（support@japanmaetao.org）までご連絡ください。
- ※ 期限を過ぎてからご入会される場合は、ホームページより新規の方法でお手続きください。

新刊のお知らせ

このたび、メータオ・クリニックとの交流と支援を続けた10年間に綴ったリレーエッセイを書籍にまとめました。来年2月に全国の書店にて販売予定です。ぜひ、お手に取ってご覧いただければ幸いです。どうぞよろしくお祈りいたします

タイトル：国境の医療者
編集：NPO法人メータオ・クリニック支援の会
写真：渋谷敦志
発行：新泉社
ISBN：
発売時期：平成31年2月予定
予価：1800円＋税

活動報告会のご報告

12月2日（日）に国際保健医療学会の自由集会にて、現地活動報告と2018年スタディーツアーの報告を行いました。

スタディーツアー報告では、今年は2回の開催で内容が異なったため、それぞれA・B日程の参加者のみなさんから報告がありました。メータオ・クリニックや移民学校で感じたこと、難民キャンプの状況やメソト地域の住民の特徴等わかりやすくまとめていただき、わかりやすい報告でした。

現地活動報告は、看護事業の概要と、1年間の活動と成果、今後の課題について報告しました。「写真があり、わかりやすかった。」「具体的な内容が聞けて、面白かった」などの感想をいただきました。



今回の会場は小平市のため、都内から少しアクセスのしづらい場所でしたが、たくさんの方にお越しいただきありがとうございました。

国内から

【東京＝森】

今回の記事を担当させていただく、森と申します。いつもご支援ありがとうございます。JAMではHPや会報送信などの広報担当としてお手伝いさせていただいています。普段は地方病院の救命救急センターで駆け出しの救急医をしています。学生時代から続けてきたJAMの活動ですが、社会に出て働くようになり、仕事の合間に時間を捻出して、無償で行うボランティア活動が、いかに継続することが難しく、尊いものであるか、実感しています。

さて、今回は私の専門分野である、救急医療についてのお話を少しさせていただきます。

皆さんは、プレホスピタル活動という言葉を目にしたことはあるでしょうか？

その名の通り、救急現場から、救急車に乗って病院へ搬送されるまでに行われる病院前診療のことです。最近では、ドラマや映画でドクターヘリやドクターカーが有名になりましたね。

日本では、2001年からドクターヘリ事業が開始され、現在全国43道府県に53機のヘリが配備されています。患者を病院に運ぶための手段としてだけでなく、医療スタッフを現場に派遣し、いち早く診療を開始することができます。いわば、『医者デリバリーシステム』です。

近年は、消防の救急救命士もできる医療行為が拡大されてきていますが、外国と比べますと非常に制約が大きいのが実情です。そこで、医師や看護師を現場に派遣するわけです。そうすることで、救急車で1時間かけて病院まで来ていた患者さんは、ドクターヘリによってデリバリーされた医師・看護師が救急要請から15分で患者さんへ接触し、その場で診療を開始することができます。時には、現場の救急車の中で開胸・開腹手術をすることもあります。

このシステムによって、救命率は3割以上向上したと言われていています。私の地域では、救命センターは当院1ヶ所しかないため、重症患者は全例当院へ集約されますが、ヘリがあれば県内どこでも15分以内で到着することができます。ヘリが飛べない夜間や悪天候時には、同じ要領でドクターカーが活躍します。このプレホスピタル活動によって、住んでいる地域によっての医療格差を是正することに繋がります。

これは、医療機関への受診が容易ではない、途上国においても役に立つシステムではないでしょうか。特に、交通外傷は途上国における死亡原因の上位であり、プレホスピタル活動が効果を発揮できる余地が大いにあるように思います。いつか、このシステムを途上国の現場に輸出するような、そんな活動ができればいいなあと夢見ています。

国際保健医療協力のなかで (41)

【東京＝小林 潤】



年末年始の挨拶にかえて書かせていただこうと思う。

実は、保健医療系のNPO団体は出来ては消えが繰り返されているが10年以上続いている団体は少ない。

JAMは、いろいろな要因があり継続できたと思うが、大きな一つの要因はウエットな人のつながりによって継続できていると思う。実は、これほど事務経費がかかっていない団体は少ないだろう。現地派遣員の派遣費用以外は全てボランティアによる運営で成り立っているし、事務経費は交通費等の必要最低限しか支出していない。「効率性がない」「運営メンバーに過剰な労働を課している」等々の意見も真摯に受け止めてきた。多くの団体が、大口の支援によって専門家や事務員の雇用によって成り立っていて職業として運営しているメンバーが核となっている。JAMがそうでないことは、皆の行為に甘えている代表でもあるようで、常に自問自答してきた。

しかし、我々のような団体もあっていいのかとも最近は思う面もある。全てのスタッフがJAMでの仕事が生活の場のメインではないことが、難民移民の人を支えるという「現場主義」がずれないことにもつながっているかと思う。すなわち、全ての会員の皆さまやメンバーにとって支援や活動が難民・移民の支援に役立っていることが実感しやすい運営スタイルだからと思う。すなわち運営している日本人のためにやっていると思われることは全くないといっている。JAMの支援は、メタオ・クリニックの運営資金全体に比べると小さい支援であるが、私自身も自分のポケットマネーを使うことは多々あってもJAMの予算を旅費等に充てたことは一歳ないのでメタオクリニックの運営に対しても堂々と言える。しかし、それがこれからも成り立つには、JAMに属している、JAMとつながりたいと皆が思う場所でありつづけることでなければならない。この点はまだまだと思うことが多々あり、皆の力をかりながら継続できたらと思っている。

改めて全ての会員の皆さまと、運営メンバーの努力に感謝の気持ちがこみ上げている。「ありがとうございます」

編集後記

今年も、毎年恒例のカレンダーをゆうメール便にて会員の皆様に送らせていただきました。振り返ると、この1年もあっという間だったと感じます。

今年は、当会が立ち上がって10年の節目でした。そこで歴代の現地派遣員が思いを綴った書籍を発行しようという話になり、いよいよ発売となります。

来る年も、引き続き、あたたかいご支援をしていただけますと幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

次号の予定

毎月、読んでいただき、誠にありがとうございます。齊藤看護師の帰国に伴い、現在、現地派遣員は不在です。突然のお知らせになりますが、誠に勝手ながら次号から、隔月の発行にさせていただきます。次号は、2月中～下旬ごろ配信の予定です。

現地からの最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。



